

リニア新幹線を考える中原・高津の会ニユース

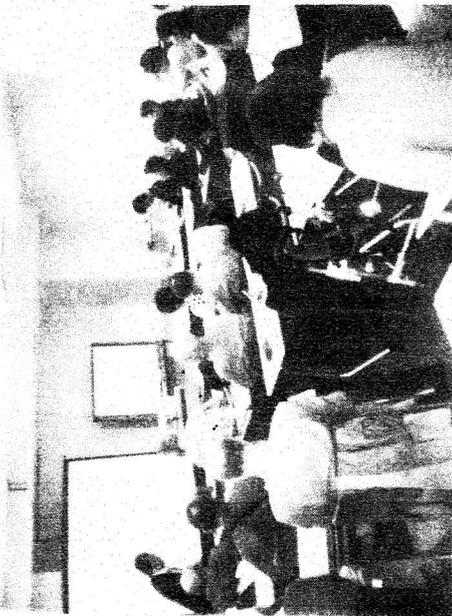
VOL. ① 2013年1月7日発行

大深度トンネル・立坑工事の影響は・・・

発行：リニア新幹線を考える中原・高津の会
連絡先：044-866-5785 天野

中原で「住民による住民のためのリニア説明会」

昨年十二月二〇日夜、中原市民館で行われた「中原・高津からリニア新幹線を考える～住民による住民のためのリニア説明会」には、中原区、高津区の市民を中心に三八名が出席しました。最初に、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会共同代表で、同中原・高津の会「発起人の天野捷一氏が、リニア計画と川崎市民への影響について説明、後半は日本自然保護協会の辻村千尋氏が「大深度トンネル・立坑工事の市民生活・環境への影響」というテーマで講演しました。



ルートは環境影響調査地点に近い

天野氏は、リニア新幹線の想定ルートは、中原・高津・宮前・多摩・麻生の中北部ら区の3km幅で設定されているが、すでにある程度絞り込んでいると予想。昨年夏と秋にJR東海から環境影響調査場所として申請が出された中原区等々力周辺や高津区梶ヶ谷周辺を通り、宮前区犬蔵、北部市場周辺から多摩区をかすめて、麻生区王禅寺付近を通過、稲城市へ抜けるルートが予想されると説明しました。また、JR東海が五ヶ所おきトンネルまで掘る立坑について

は、市内に三カ所できるものとみて、中原区では等々力周辺が候補地だと指摘しました。立坑工事には五千から一万坪の広大な工事用地（ヤード）が必要で、JR東海が「公園や民有地にはつくらない」としていることから、広大な企業用地などはある程度限られることで、逆に予定地は絞られると説明。中原区では等々力緑地周辺に広い企業所有地があることから、有力候補地として挙げられると話しました。



日本自然保護協会・辻村千尋さん

住民無視のリニア環境影響評価

計画に「アセスメント」が実態

日本自然保護協会の辻村千尋氏は講演のなかで、日本の環境影響評価（アセスメント）制度が、計画ありきの後追いアセスになっていて、パブリック（意見募集）や自治体のアセ

スも単なる手続きに終わっている、公共事業で計画後に中止になったのは、白神山地のスーパー林道などきわめて少ないと指摘しました。リニア計画を止めるためには、住民がさまざまに声を上げるとともに、この事業が国民のみならず、JR東海にとっても得にならないことを論理的にも提起し、納得させることが必要であると述べました。

新たに6人が中原・高津の会入会希望

この日の集会で、会への参加希望者が6人あり、今後の運動にとって大きな励ましと勇気を与えてくれました。



リニア計画凍結を求める署名行動

1月18日(金)午後4時～5時

JR武蔵小杉駅バスターミナル

1月25日(金)午後4時～5時

JR溝の口駅前デッキ

皆さん、是非参加を！